

英語科からのメッセージ

生徒のみなさん、いかがお過ごしですか？計画的に上手に時間が使えている人、そうでない人の差が広がりそうですね。こんな時だからこそ、いつもはできないことをやってみたいですね。

この急にやってきた潤沢な時間をうまく使えている人もそうでない人にも、我々英語科からみなさんにおすすめの本やウェブサイトを紹介します。もし気になるものがあれば、自分で本を買うなり、サイトを訪ねてみてください。学年を超えての紹介です。たくさんある時間に少しでも彩りが添えられれば嬉しいです。自宅勤務をしているお母様、お父様にも十分楽しめるものもあります。家族の話題作りにもどうぞ。

少しでもみなさんの時間が実りあるものになりますように。自分から動いてみてください。それが大事です！

英語科主任 渡邊

Y先生

◆『ディズニーの英語シリーズ』

石原真弓 中経出版 (中2～)

ディズニーの人気作品を読んで聴いて学べます。映画を観たことがある作品はどのような英語が使われているのか確認でき、映画を観たことがない作品は、本書で学習してから映画を観ると理解がしやすくなります。どれを選べば良いかわからない人にはトイ・ストーリーがおすすめです。

◆『道を歩けば前置詞がわかる』

宗宮喜代子他 くろしお出版 (中3～)

前置詞を上手く使うのはとても難しいですが、上手く使えると英語らしい表現になることが多いです。この本では主に空間前置詞について、道を歩くことをイメージしながら、イラストも用いて解説しています。例文も豊富で、読みやすいです。

最後の章には映画、小説での例や和歌、俳句の英訳も扱われていて面白いです。

◆Audible (高1～)

<https://stories.audible.com/start-listen>

ニュースでハリー・ポッターのオーディオブックが無料に！ということで話題になったので知っている人もいるかもしれません。

アプリもありますが、上の URL だと操作がわかりやすいです。サイトには以下の英文から始まる説明があります。

For as long as schools are closed, we're open.

良い表現だと思いました。「学校が休校になっている限り、開放します」ということで、今回の事態を受けて、子ども向けの作品を無料開放しているのです。子ども向けといっても英語の音声だけなので理解するのはなかなか難しいですが、例えばハリー・ポッターであれば本も用意して文字を追いながら聞いてみたり、日本語版もあるので比較しながら聞いてみても良いでしょう。機械音声ではなく、俳優などが読んでいるので、聞き応えがあります。

◆coursera (上級者向け)

<https://jp.coursera.org>

著名な大学や企業の方が講師の学習コースをオンラインで無料で受講できます。内容は多岐にわたるので自分の関心のあるテーマを探してみると面白いです。

T先生

参考 Web サイトとして、私からは以下のサイトをご紹介しますと思います。

◆「英語上達完全マップ」

http://mutuno.o.oo7.jp/08_mutunobook/08_mutunobook.html

とりわけ左タブ欄にある「英語は日本で上達する」、「英語力を解剖する」の各ページは、自学習する際の思想的な一助になると思います。また他のページにも、4技能に関する有益情報が沢山あり、英語力について俯瞰的な視野からまとめられています。

◆‘Lyrics training’

<https://lyricstraining.com>

マルーン5やエドシーラン他、洋楽の歌詞を再生される歌に合わせて聞き取り、タイピングするゲームです。何文字聞き取って入力するかの難易度が選べるので、幅広い学力層の生徒に喜んでもらえると思います。タイピング技術も必要になるので、TOEFL IBT ライティングを見据えても有益かと思えます。

もう一人のY先生

★語彙（比較的入手しやすいポケット版）

◆Word Power Made Easy (Revised Version) (Norman Lewis, 2014, Anchor Books)

30 Days to a More Powerful Vocabulary (Revised) (Wilfred Funk and Norman Lewis, 1991, Pocket Books)

『DUO』や『鉄壁』では物足りない君へ。ボキャブラリー・ビルディングの旗振り役とも言える Norman Lewis の手による代表的な2冊。上の方が有名だが、30日分にレッスンを割り振った下の本の方が取り組みやすいかもしれない。私は30 Daysを教材として講習を行うことを密かに計画している。

◆中1、中2あるいは復習したい中3～高1向けに

『中1英語をひとつひとつわかりやすく。』（山田暢彦監修、2009年、Gakken）

『中2英語をひとつひとつわかりやすく。』（同上）

イラストも添えられており、無理なくこれまでの内容を振り返ることができる。全てのレッスンの無料動画がウェブ上で公開されている。Amazonのレビューでも高評価のようなので、手に取ってみて損はない。

◆同じシリーズの、

『英検4級をひとつひとつわかりやすく。』（2013年）

『英検3級をひとつひとつわかりやすく。』（2017年）

は、英検に的を絞った問題集。クイズ形式で自らの実力を診断することができる。

★文法、そしてその周辺

◆『夢をかなえる英文法 ユメブン ⑩中学総復習～高校入門レベル』（木村達哉・佐藤仁志著、2011年、アルク）

◆『夢をかなえる英文法 ユメブン ①高校修了～大学入試レベル』（木村達哉・石崎陽一著、2011年、アルク）

中3～高2向け。意欲ある中2も①の前半は十分取り組める。いずれも、ディクテーション（書き取り）ができる構成になっているのが良い。

◆『英文法の疑問 恥ずかしくてずっと聞けなかったこと』（大津由紀雄著、2004年、NHK出版）

日本を代表する言語学者が、英文法の素朴な疑問について明快に説明してくれる好著。英文法を一通り頭に入れた中3から高1くらいに読むとちょうどよい。

◆『英語の疑問 こう考えてみよう』（大津幸一著、2004年、岩波ジュニア新書）

英語を学習する上でふとわいてくる素朴な疑問に丁寧に答えてくれる好著。著者は自らを Eigerian と称する（本人の Twitter より）。本書は語法・単語についての疑問、文法についての疑問、勉強法についての疑問の3つのパートに分かれていて、中1の初学者が読んでも分かりやすく、高3の上級者が紐解いてもためになる一冊。扱われている疑問をいくつか紹介すると、「some は数えられる名詞にしかつかない？」「at の示す範囲は？」「形容詞には順序がある？」「冠詞の省略」「speak, talk, say, tell の違いは？」「ホーム・ステイや海外短期留学の効用は？」など。平易なことばで英語のエッセンスが解説されており、著者の英語（および英語学習者、と言っても差し支えないと思う）に対する愛情が伝わってきます。なお、この本に限らず、岩波ジュニア新書には、優れた書き手による英語関係の好著が多いので、時間が許すときに一度図書館などでチェックしておくべき。

◆『スーパーレベルパーフェクト英文法』（植田一三編著、2011年、ベレ出版）

このような本もあるという紹介。ベレ出版は英語マニアの欲求を十全に満たしてくれる数少ない出版社。高校英文法がかなりの程度固まっている生徒向けの一冊。（旧）センター試験で9割を取れるレベルの生徒に。かなりマニアックなことも書かれているので、その方面の知識を広げたいという欲求に十分に応えてくれる。

★読解・解釈

◆『英語のセンスを磨く 実践英語への誘い』（行方昭夫著、2003年、岩波書店）

高2以上。「英文解釈・英語の読解力を、本気で身につけようと考えている人」（まえがき）が対象。文法は一通り頭に入っているはずなのに、今ひとつ英文が腑に落ちない、と感じる時にどのようなことを手がかりに英文を読み進めるべきなのか、ということについて、実際の英文をもとに詳細に解説している。この本に限らず、行方先生の本は丁寧に扱いたいという気を読者に起こさせる。東大教養学部の伝統とでもいうべき「丁寧な読み」が英語への愛情と共に強調されているからだろう。

◆『越前敏弥の日本人なら必ず誤訳する英文』（越前敏弥著、2009年、ディスカヴァー携書）

著者は『ダ・ヴィンチ・コード』などの訳者。I waited for fifteen minutes – they seemed as many hours to me. はどう訳す？主として文法的観点から、誤訳しそうな英文（短文からある程度まとまった記事程度の長さのものまで）を選びすぐり、効率よくかつ丁寧に解説する。ある程度英語に自信のある高1・高2あたりからどうぞ。

★リスニング（スピーキング）

◆『英語リスニングのお医者さん』（西蔭浩子著、2009年、The Japan Times）

「知っている単語なのに、聴き取れない…」英語のリスニングって、こんなことばかりでイヤになる…。本書はそんな「リスニング難民」のために編まれた好著。冒頭のリスニングチェックアップを受けるとその人の苦手なところを明確にしてくれ、それに応じたワクチン（処方箋）を提示してくれる。学習上の工夫に満ちた一冊。続編も刊行されており、隠れた(?)ベストセラーとなっている。意欲ある中3から高3まで。

◆「英会話タイムトライアル」(NHK ラジオ番組)

日本語にも堪能なスティーブ・ソレイシイ氏が、SPR (しゅんぱつりょく) 訓練を通じて、英会話力を向上させてくれる。この番組を聴いていると、必然的に英語を口に出さないとイケなくなるので、英語スピーキング力の維持には持ってこい。今年度4月のテーマは、“Welcome to Japan. (日本へようこそ。)” 中学生には少し難しいが、学年問わずトライできる講座。

◆『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』(森沢洋介著、2006年、ベレ出版)

中2～高2くらいまで。基本的英文をすらすら言えるための土台として活用可能。文法の復習にも。

★英語学習全般に活用できるもの

◆『日本人のための英語術』(ピーター・フランクル著、2001年、岩波新書761番)

◆『これが正しい! 英語学習法』(斎藤兆史著、2007年、ちくまプリマー新書)

上は、ハンガリー生まれの数学者にして大道芸人でもある語学の達人ピーターが、日本人向けに無理のない英語学習法を紹介してくれる。「電報的日記」「連想ゲームで単語リンク」「ことわざで表現力をみがく」「英英辞典ゲーム」など、興味深い(そして無理なく実践できそうな)勉強法が満載。外国語を学習する上での心構えについても実践的な知恵を授けてくれ、英語以外の外国語にも応用が利く。もう一冊は、英語学習の諸分野(音読、作文、読解、リスニング等)について実践的かつ本格的なアドバイスを与えてくれる一冊正統の英語学習がどうあるべきかについて、初心者に対して厳しくも心温まるアドバイスが光っています。

★語源、学問としての英語

◆『語源で英語力を磨く本』(デイビッド・セイン著、2010年、永岡書店)

◆『英語の語源のはなし』(佐久間治著、2001年、研究社)

◆『英語の歴史 過去から未来への物語』(寺澤盾著、2008、中公新書)

1番上は、ややライトな観点から語源に触れ、なおかつ語彙の増強も試みたい人にオススメ。「ライトな観点」とは言え、扱われている単語や表現は英検準1級や1級レベルのもの(salad days, per capita, kleptomania, green thumbなど)も多く、上級者にも読み応えがある。

2番目は、ややランダムな形式ではあるものの、英語の様々な単語の歴史・語源に迫り、数々の英単語を、時空を超えて縦横無尽に結びつけて解説する。英語語源学(英語では etymology という)の入門書とでも言うべき一冊。「語源学」というと何だか厳格で怖いイメージも受けるが、さにあらず。「girl は少年だった」「union (連合) と onion (たまねぎ) は姉妹語」「語尾-i で終わる英単語はない」「sun は son で、son は sun だった」「I'm afraid of dogs. は受動態」「quarantine (検疫。最近、英語ニュースでお目にかかるが…)とは、もともと、<?? 日> の意味」などと聞くと、興味が湧いてくる。

その語源を語る際にどうしても避けて通れない分野が英語という言葉が辿ってきた歴史。その英語史を一般的な読者にも明快に説明した新書が3番目。簡単に言うと、「英語という言葉がどこからやってきてどう発展してきたのか」— その辺りを覗いてみたい人にはオススメ。「昔の英語は、どんな文字を使って、どう発音していたのか?」という言葉学的興味も満たしてくれるし、「どのように英語が生き残り、発展してきたのか」という社会学的・歴史学的好奇心にも充分に応えてくれる。

★帰国生(あるいは高い英語力を有する高2・高3)向け

◆『英米人のものの見方を理解するための教養の英語』(白井俊雄著、2013年、ベレ出版)

◆『日本の地理・歴史の知識と英語を身につける』(植田一三著、2007年、ベレ出版)

超上級の2冊。大学で英語を学んでいる時、「聖書、シェイクスピア、ギリシャ神話、マザーグース」は欧米の文化・言語を理解する上で欠かせない、と度々言われた。『英米人の～』は、これらがかなり詳しく扱われており、英語好きは座右の書としたい。得意な英語を活かして日本文化の知識を手に入れたい、という人は『日本の地理・歴史～』を見てみるとよいだろう。かなりマニアックな知識や英語表現も多いが…。

★英語関係の書籍を紹介する本

◆『竹岡広信・安河内哲也のこの英語本がすごい!』(竹岡広信・安河内哲也著、2010年、中経出版)

著者二人がこれまでに触れた数多の英語教材から精選したオススの良書がふんだんに紹介されている。「英単語」「英文法」「英会話」「精読」などの各分野について、著者それぞれがベストスリーをその内容と共に紹介する形式で編まれている。英語好きは手元に置いておきたい。

★ウェブサイトなど

◆東京外国語大学の21世紀COEプログラム、「東京外国語大学言語モジュール」(<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt>)

インターネット上の言語教材で、英語をはじめとした27言語を無料で初歩から学べる(あるいは、学び直せる)仕組みになっている。解説や例文も分かりやすく書いてあるので、取り組みやすい。スマホでも、タブレットでも表示可能。気が向いたら、他の言語モジュールを覗くのもいい気晴らし(?)になる。

◆ジャパントイムズホームページ(<https://www.japantimes.co.jp>)

本校英語科でも購読している日刊紙の英語サイト。扱われているニュースは日本国内のものが中心なので、時事英語に触れるきっかけとしては最適。日本のニュースだとすでにテレビなどで耳にしているケースが多いため、割にスムーズに英語が読めるのではないかと。トップ画面の左上の“CITY GUIDE”をクリックすると、日本各地のローカル情報なども入手でき、興味深い。もちろん、国際ニュースも多く扱っているので、国際情勢に興味がある生徒もどうぞ。なお、ニュースのヘッドラインが日本語でも表示されている alpha (<https://alpha.japantimes.co.jp>) もオススメ。意欲ある中3あたりから読めそう。

また、ウェブサイトの紹介という点では、以下の新書がオススメ。

◆『何度も何度も挫折した人のための 英語はネット動画で身につける!』(本間正人著、2010、角川SSC新書)

主としてフリーでアクセスできるインターネット動画サイト、そしてその具体的な活用法を詳しく教えてくれる、隠れた(?)名著。中学生でも少し背伸びすれば楽しめるニュースサイトも多く紹介している。語学の上達には継続が欠かせないが、自分の趣味やレベルに合うサイトを見つけることで、継続への道筋も見えてくる。

○先生

◆『英語の音声変化が学べる 洋楽を歌おう!』 安武内ひろし著 秀和システム (本体1,600円+税)

「聞こえないんじゃない、最初から言ってないんだ。」 皆さんは、テレビまたはネットで流れる、あるWEB学習サービスのCMを見たことがありますか? これは、リスニング対策の授業の一部を紹介したもので、“out of”は「アウトダ」、”ask him”は「アスキム」のように聞こえると説明した後、冒頭の決めゼリフで結んでいます。この決めゼリフが表している内容をかみ砕いて言うと、「君たちはリスニングで発音が聞き取れないというけど、それは、君たちが思っている発音のイメージと実際の発音は違うからなんだよ。そもそもそんな風に発音していないんだから、コツを知らない限り、いつまでたっても聞き取れるようになりませんよ。」といった感じになるでしょうか。

さて、前置きが長くなりましたが、上記のセリフが実感できるのが本書です。本書では、比較的最近の歌を8曲取り上げ、その中に出てくる音声変化のルールを細かく説明してあります。実際に YouTube 等で曲を聞いてみると、ああ、確かにそういう風に聞こえる、と納得できるでしょう。巻末の「音声変化のルール一覧」では、項目ごとにその発音を含む語句や文の例が5～10個あげてあり、MP3音声（無料ダウンロード）でネイティブスピーカーの発音を確認しながら練習することができます。自分が好きな歌の練習をするうちに、自然な発音が身についていき、また、リスニング力も伸びていくなると、すごくお得だと思いませんか？収録曲は、“Love Yourself”(Justin Bieber)、“Call Me Maybe”(Carly Rae Jepsen)、“One Last Time”(Ariana Grande)など、人気曲揃いです。ぜひ、手に取ってみてください！（本書の著者はCMに出ている先生ではありません。念のため。）

H先生

◆TED ED <<https://ed.ted.com>>

なぜ紫色を国旗に使う国がないのか知っていますか？もし興味があれば、ページ内で“Why don't country flags use the color purple?”と調べてください。アニメーションがわかりやすく、日本語字幕がなくても十分に理解できます。他にも、“Why no aquarium has a great white shark”(なぜ水族館には大型のホホジロザメがいないのか)など、分野問わずおもしろい動画が数え切れないほどあります。

◆BBC Learning English <<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>>

イギリスの国営放送である英国放送協会(British Broadcasting Corporation)のHP内にある英語学習サイト。リスニング力の向上はもちろん、語彙、文法、時事英語などの伸長が期待できます。

もう一人のT先生

(英作文のスキルをブラッシュアップしたい高校2、3年生向け)

◆Z会『英作文のトレーニング』〔必修編〕・〔実践編〕

(ある程度文法・語法・構文が身につけている) 英作文のスキルを磨きたい人にお薦めの本。

〔必修編〕では、短い和文英訳問題とその解説が対話形式で書かれていて、学習者が間違いやすいポイントや、日本語を英語に訳す際に必要な発想転換のポイントについて詳しく述べてあります。また、各問題・解説が2ページの見開きに収められているので、学習のペースが設定しやすいところもおすすめです。

〔実践編〕では、一冊で基本問題(短い和文英訳)から応用問題(まとまった量の和文英訳・自由英作文)までの入試問題がコンパクトにまとめられており、それぞれ解き方のプロセスに重点が置かれた詳しい解説がついています。基本表現や間違いやすい表現の確認から、論理的な英文の組み立て方に至るまでを、段階的に身につけることができます。また、別冊として、入試頻出の“日本語の発想とは異なる表現”をベースとした英文が300文まとめられており、全てを暗唱できるようになればかなりの実力アップが望めると思います。

(ちなみに、この『英作文のトレーニング』は〔はじめる編〕〔必修編〕〔実践編〕〔自由英作文編〕の4つのレベルからなるシリーズなので、自分のレベルに合ったものを選んで勉強することをおすすめします。)

◆<Cambridge English> Write and Improve (<https://writeandimprove.com>)

ある程度英作文の構成ルールが身につけている人にお薦めの自由英作文実践練習サイト

ケンブリッジ大学出版とケンブリッジ英語検定機構が共同開発した、自動で英作文を添削してくれる無料のサービスです。サイト上にはレベル別に作文のテーマが与えられていて、その中から自由に問題を一つ選び、定めら

れた字数で英作文を書き送信すると、10秒もかからずにコンピューターがレベル付き(CEFRに基づく)のフィードバックをくれます。おすすめポイントは、とにかく英作文の練習になるということ。英文は書けば書くほど、ある程度の語数の英語を書くことに慣れるし、その中身もブラッシュアップされます。また、タイマー機能もついているので、自分が何分ぐらいで何語の英語を書くことができるのかを把握でき、入試英作文の時間配分の目安にもなります。ただし、欠点としては、コンピューターによるフィードバックが所以、文法・語法のミスは細かく指摘してくれるものの、言葉のミスチョイスや論理破綻など内容に関する間違いに対しては実際の教師のような確かなフィードバックは望めません。したがって、内容のレベルアップ手段として利用するというよりは、ある程度英語力に自信のある人が、とりあえず自由英作文を書く練習量を増やしたい、という目的で利用するのが理想的な利用方法だと思います。

F先生

◆サイト名称：LearnEnglish Teens

<https://learnenglishteens.britishcouncil.org>

ブリティッシュ・カウンシルの公式サイトです。

中・高生向けに様々な英語学習用コンテンツを配信しています。

内容はCEFR(外国語の学習者のためのヨーロッパ言語共通レベル分け)に沿って作られています。自分に合ったレベルが分からない場合は、簡単なレベルチェックテストで確認することができます。

このサイトを初めて使う場合は、“Skills”というセクションから始めると良いでしょう。ここでは、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能を実際に起きる状況を想定して作った問題で練習することができます。その他、文法や単語、テストを受ける時に役立つテクニックを教えてくれるページ、PODCAST、楽しいゲームをしながら英語を学べるページもあります。

このサイトの案内は、日本語で確認することもできます。

<https://www.britishcouncil.jp/english/learn-online/websites/learn-english-teens>

◆サイト名称：LearnEnglish

<http://learnenglish.britishcouncil.org>

こちらもブリティッシュ・カウンシルの公式サイトです。

もうひとつのサイトと似た内容になっていますが、こちらは一般向けの内容で、特に中高生向けには作られていません。

もう一人のO先生

◆「チャート式シリーズ 基礎からの新々総合英語」(本体 1476円+税)

言わずと知れた英文法の総合的な参考書としてのロングセラー。高校2年生終了時までには英文法の総まとめをするを前提として推薦します。数研出版のHP*に使用方法の説明があります。

(*参照 URL: <https://www.chart.co.jp/goods/item/eigo/1523.php>)

◎以下の3通りの使い分け

(1) 英文法の総合的な参考書として使用

中学初級から大学受験終了まで文法に関する総合的な参考書として使用可能。わからないことがあったらその都

度引いて調べる。

(2) 英文法の基礎固め（中3～高1）

解説を読んで基本例文を理解し、基礎問題〈TRY〉を解けるようにする。

(3) 大学受験対応（高1～高2）

解説中の [注] や [発展]、コラム（Grammar for Writing / Grammar for Reading）、CHART も全て押さえる。あまりに細かすぎるところは読んで確認するにとどめ、その他はしっかりと暗記する。全体で 500 ページを超えるが、最難関大学の入試を突破するためには避けては通れない内容。さらに「スクランブル英文法・語法（旺文社）」、「Next Stage 英文法・語法問題（桐原書店）」などで問題の演習量を増やすとよい。

推薦ポッドキャスト（スクリプト付き）

* 視聴する動画を限定し、何度も繰り返し視聴・音読・シャドウイングしてみましょう。

Hapa Eikaiwa の第 2 1 回はバイリンガルになるための英語学習の本質が語られているので必聴です。

◆ Hapa Eikaiwa : <https://hapaikaiwa.com/category/podcast-column/>

* iTunes でダウンロード可、スクリプトはサイトで公開

* YouTube にも英語字幕付きの動画多数あり

◆ BBC 6 Minute English : <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/persian/features/6-minute-english>

* スクリプト・音声ダウンロード可

◆ CNN 10 Student News : <https://edition.cnn.com/cnn10>

* スクリプトはサイトで公開

* 音源は YouTube でも見つかります。

以下は新中学一年生向け

* YouTube などでもアルファベット、曜日、月の歌などを聞いて英語の音に慣れることをお勧めします。以下のサイトは一例です。例えば、アルファベットの歌でもその歌詞で使用されている英語の難易度は様々なので、自分のレベルに合わせたものを選んでください。また、既に自宅に郵送されているはずの教科書の本文の音源も出版社のサイトで聴取することができます。

◆ アルファベットソング : <https://www.youtube.com/watch?v=75p-N9YKqNo>

◆ 曜日の歌 :

https://www.youtube.com/watch?time_continue=23&v=FVKEnbNNNmM&feature=emb_title

◆ 月の歌 : <https://www.youtube.com/watch?v=gtc4c1JlAEM>

◆ 教科書音源（教育出版） :

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/chuu/eigo/document/ducu4/index.html>

* 教科書『One World ①』の巻末資料 4 「つづりと発音」を参照し、上記サイトの「母音」と「子音」を聞きな

がら発音し、つづりと読み方のルールを確認できるよい。

M 先生

◆"Who was ...?" "Who is ...?"シリーズ 対象：中3、高1 出版社：Penguin

このシリーズは結構おもしろく、多読を始めたいけど何から読んでいいかわからない人におすすめです。過去の偉人のみならず、少し前に亡くなった人、そして今も健在の人を扱っています。

ページ数は約100ページで、挿絵が多く、平易な英文で書かれています。知っている人物でも新たな発見があり、読んでいて飽きない本だと思います。シリーズとしては、100冊以上出版されています。そのほかに"What is ...?"、"Where is ...?"シリーズもあります。公式サイト <http://www.whowasbookseries.com/>

W 先生

<英語そのものに興味を広げるために>

◆石戸谷茂、真鍋照雄(2008)『恥ずかしくて聞けない英語の基礎・基本62』黎明書房(中2から高1向け)

英語の基礎基本ではあるけれども、なかなかうまく説明ができないことがうまく解説されています。例えば「どうしてknowは「クノウ」と発音されないのですか？」なんて質問。

<骨のある英文を読めるようになるために>

◆生方昭夫(2012)『解釈につよくなるための英文50』岩波書店(高2、高3の英語が得意な人向け)

かなり難しい数行のまとまった英文を解釈していくというもの。 例えば

Of him they took but little notice. He might have been a log of wood lying there at Miss Barrett's feet for all the attention Mr. Browning paid him...

なんて文が続いていきます。解説の部分は、この本が「岩波ジュニア新書」ということもあり、高校生と教師の対話という形で進んでいきます。読みやすいです。扱っている英文は「本物」です。英語の力に自信がある人はぜひ読んでみてください。

<英語でのコミュニケーションを楽しむために>(全学年向け)

◆紹介したいのはいわゆるオンライン英会話です！これはいろいろあります。有名どころでは「DMM英会話」や「レアジョブ」なんてのが有名ですね。中学生向けによくできているし、値段も良心的なのは学研の「kimini」でしょうか。ほとんどのものに無料体験がついていますので、この休校期間中に試しにやってみるのも手ではないでしょうか。話者がフィリピン人の場合が多く、アジアの見聞を広げるのにももってこい。スピーキングというアウトプットの時間はなかなか取れないものです。いい機会かもしれませんよ！

またまたO先生

新中学2年生対象

◆「もっとやさしい起きてから寝るまで英語表現600」(アルク)

朝起きてから夜寝るまでの、自分の行動や感じたことを英語で繰り返すつづやくことで、どこにいても一人でも、どんどん話せるようになる、という本です。これはかなり初級編。自分にあったフレーズだけでも頭に染み込めばしめたものです。物足りない人には、このシリーズ元祖の、

◆「起きてから寝るまで英語表現 1000」(アルク)

もあります。シリーズ通算180万部というロングセラーですから、特にお薦めします。私もこれで英語力が増したような気がします。

N先生

以下では高校生向けに、語彙学習や英作文練習の際に活用できるオンラインの英語辞書サイトなどを紹介する。ブラウザのブックマークなどに登録しておくとう便利！

◆ <https://www.ldoceonline.com/>

語義が分かりやすい英英辞典。英和や和英ばかりでなく、英英辞典の方が逆に分かりやすいことも！

◆ <https://www.thesaurus.com/>

類義語 (synonym) や反意語 (antonym) を調べることのできるサイト。新しく知った単語と自分がすでに知っている単語のどれが似ているのか、もしくは異なっているのかを意識することは語彙学習において大切！

◆ <http://www.ozdic.com/>

英語活用語辞典として利用できるサイト。あるひとつの単語と一緒に使われることの多いことばは何か調べることができる。英作文の練習をするときにつかってみよう！

◆ <https://www.etymonline.com/>

◆ <http://hidic.u-aizu.ac.jp/>

英語の語源に関する情報をまとめたサイト。自分が知っている語の語源とは何なのか、またそれと関連している語は何か、調べてみたいマニアックな方にはオススメ。また、単語をどうしても覚えられない時に追加情報としてみるとキャラクターのバックストーリーなどとして抑えられ、記憶の助けになることも！

◆ <https://www.deepl.com/ja/translator>

DeepL 翻訳というオンライン翻訳ツール。無料のバージョンは一度に翻訳できるテキスト量に制限などがあるものの、既存の翻訳サービスと比べ、精度が高いと話題になっている。英語学習の文脈から考えると、表現の言い回しを調べる辞書や、英作文を自ら添削するときの指針として活用できるかも！

さらに O先生

◆「日本人に一番合った英語学習法」 斎藤 兆史 祥伝社 黄金文庫

英語力を本格的に伸ばしたいと思っている中3～高1位の生徒諸君にお薦めします。書店で「〇〇日間で完成」「〇〇日間で〇〇点アップ」といったセンセーショナルなタイトルの語学書をよく見かけます。本書はどのような即効性を期待している方々には期待はずれかもしれませんが、個人的には語学学習において〇〇日間で英語力が完成するなどまず有り得ない話だと思っております。斎藤先生は東京大学教授で「英語達人列伝」(中公新書)などの著書もあり、本書もその系列です。パソコンもネットもない明治時代になぜ新渡戸稲造のような英語の巨匠が生まれたのでしょうか？突き詰めていくと結局は「音読」「多読」「基礎英文法」といった当たり前のことを実行していたことが分かります。但しその量たるは半端ではなかったというのが凡人と違う所で、新渡戸は札幌農学校の図書館にあった洋書をひたすら読み漁っていたということです。

入試問題を読む際はここがS、ここがVのように()で塊をくくりながら「暗号解読的な読み方」になりがちです。このような精読的読み方も大切で決して疎かにしてはならないのですが、私としては日本人には「多

読」の練習が足りていないと痛感します。入試問題のようにある切り取られた一部分だけを読むのではなく、一冊の本を最初から最後まで読む経験を増やすべきだと思っています。それはそう容易なことではないので Oxford Bookworms シリーズや Penguin Readers シリーズのように使用されている単語の難易度が5段階程度に分かれて制限されている graded readers と呼ばれる図書がおすすめです。シャーロック・ホームズやアガサ・クリスティーのような探偵ものなど原作の良さをある程度保ちながら易しい英語で書き換えてあるので挫折せずに1冊読めたという自信がつけられます。何を選んだらよいか気になるでしょうが、1ページに辞書を調べなくてはいけない単語がせいぜい1～2語程度のものから入るのがコツです。大事なのは簡単でもよいから「挫折せずにたくさん読む」ことです。

この経験を積みばそう遠くない将来一切書き換えられていない原書を読める日がくるはずですが、英文法というのはどうしても無味乾燥でつまらないものと思われがちですが、これ無しには決して英語力は伸ばせないですよ。最近書店でよく見かける「ヘミングウェイで学ぶ英文法」「同書2」(アスク出版)は実際の文学作品と英文法の知識をリンクさせる試みとして面白い取り組みだと思っています。

「音読」「多読」「基礎英文法」という語学上達の王道を忘れずに先達に少しでも近づけるように一緒に努力をしましょう。